令和２年度
第２回動物由来感染症検討会　会議録

議題１令和２年度動物由来感染症調査実施結果（中間報告）について
（１）第一種動物取扱業における動物由来感染症調査結果
資料１－１「令和２年度第一種動物取扱業（種別「販売」における動物由来感染症調査結果」
資料１－２「令和２年度第一種動物取扱業（種別「展示」における動物由来感染症調査結果」

御意見		事務局回答
今岡　浩一	資料１－１ １、表２で調査施設の従業員数の記載があった方が良いと思います（一人あたりの管理頭数が推測できる。適切な管理頭数かどうかなど）。 ２、各施設とも完全屋内飼育でしょうか。例えば散歩等で屋外に連れ出すことはないのでしょうか。 資料１－２ 同居ヤギ２頭に予防投薬を実施し、その後、８月３日または４日にヒツジと同じく検査したのでしょうか。検査をしてないとすると、予防投薬の効果が検証できていないと思います。	資料１－１ １、調査日における従業員数については、聴き取りを行っております。調査結果への記載について、今後検討させていただきます。 ２、今回調査した個体については、全施設において完全屋内飼育です。 資料１－２ 予防投薬を実施した同居ヤギ２頭についても、８月３日、４日に検査を実施し、陰性を確認しております（資料１－２ 図１）。
佐藤　克		
中村　ふくみ	資料１－１ １、施設ごとに管理動物数に差がありますが、糞便検査に提出する検体数のもばらつきがあります。（例：施設Cでは管理している犬全てに糞便検査が行われているが、施設Eでは31頭の管理に対し検査は7件）。管理動物数の何割を検査すると決めた方が良いのではないでしょうか。 ２、従業員の調査は体調不良の有無を聞き取りしていますが、無症候性病原体保有者の可能性もあり、従業員の糞便検査も行う方が良いと思います。	１、検体数については、各施設犬・猫合計10検体前後を目途に、施設従事者の方に採材をお願いしています。当日の生体の状態により検体数が前後してしまう場合もあります。管理動物数の何割を検査するという考え方について、施設従事者の労力等も踏まえ検討していきます。 ２、従業員の糞便検査については、医療機関との調整も含め、今後の検討課題とさせていただきます。
源　真希	特になし	

（２）動物病院における動物由来感染症モニタリング事業結果
資料２「令和２年度動物病院における動物由来感染症モニタリング事業結果」

御意見		事務局回答
今岡　浩一	１、動物病院で例えば健康診断（無症状）の犬・猫からSFTSウイルスの遺伝子検出を行うことには余り意義を見いだせません。何らかの症状を元に調査対象を選択しているのでしょうか。 ２、調査対象の大腸菌株数に対して40~50%の耐性菌が検出されています。多剤耐性の物も多く、飼い主の抗菌剤使用状況等も含めて、関連を調査すると良いのではないでしょうか（厚労省の研究班でそのような検討を実施しています）。	１、今年度はまず検査体制づくりを行うことを目的として、健康な犬・猫から検体採取を実施しました。いただいた御意見を参考に、検査対象について今後検討していきます。 ２、今後の参考にさせていただきます。
佐藤　克		
中村　ふくみ	なし	
源　真希	特になし	

（３）動物愛護相談センターにおける動物由来感染症調査結果
資料３「令和２年度動物愛護相談センターにおける動物由来感染症調査結果」

御意見		事務局回答
今岡　浩一	２「犬と猫のSFTSウイルス遺伝子モニタリング調査」 検査に供したイヌ・ネコに特筆すべき症状はないのでしょうか。特に、陽性となった場合に関連づけられるので、健康状態の記載もあると良いと思います。	検査した犬猫の数頭で衰弱、黄疸が認められましたが、結果は全て陰性でした。御指導いただいた健康状態の記載については、今後の参考とさせていただきます。
佐藤　克		
中村　ふくみ	なし	
源　真希	特になし	

（４）狂犬病調査結果
資料４「令和２年度狂犬病調査結果」

御意見		事務局回答
今岡　浩一	単にNTではなく、その理由（例えば、C群についてはIFの必要性を認めない。死後、時間経過しており採材できなかった。など）を記載した方が良いと思います。	動物愛護相談センターから健康安全研究センターへの、現在の検体の搬送体制では、検体の保存期間の関係上、蛍光抗体法の実施が困難となっております。「NT」の理由記載については、今後の参考にさせていただきます。なお、RT-PCR法のみでもモニタリングのための検査として十分な感度があると考えております。
佐藤　克	野生動物の狂犬病調査数はあまりに少ないのではないかと感じます。 モニタリングのためには東京都内に生息する野生動物のある割合での調査が必要ではありませんか？ モニタリングではなく、単に技術の継続維持ということでしたら少数でもいいでしょうが。 よろしくお願いします。	野生動物の検査数については、今後の参考にさせていただきます。
中村　ふくみ	なし	
源　真希	特になし	

令和２年度

第２回動物由来感染症検討会　会議録

２　議題２（令和３年度動物由来感染症調査計画）について （１）動物取扱業における動物由来感染症調査計画 資料５「令和３年度動物取扱業における動物由来感染症調査計画」		
御意見		事務局回答
今岡　浩一	１、これまでの調査結果を基に検査項目が増えるというのは良いと思います。 ２、販売業において施設の従業員数がほしいと思います。 ３、屋内飼育、屋内飼育だが散歩等により屋外に行くことがある、その際に他の犬（一般の飼育犬）との接触がある、などの区分があった方が良いと思います。	販売業施設における従業員数及び屋内・屋外飼育の記載については、調査結果との関連性を確認するためにも、聴き取り項目を増やす等、今後検討させていただきます。
佐藤　克		
中村　ふくみ	糞線虫検査の追加について、良いことだと思います。	
源　真希	特になし	

令和２年度

第２回動物由来感染症検討会　会議録

（２）動物病院における動物由来感染症モニタリング事業計画

資料６「令和３年度動物病院における動物由来感染症モニタリング事業計画」

御意見		事務局回答
今岡　浩一	SFTSウイルス遺伝子調査の必要性はどうでしょうか。もし継続ならば対象動物の健康状態の記載がほしいです。疑わしい犬・猫を選択して、と言うのであれば良いと思いますが、結果を迅速に返す必要が出てきます。むしろ、動物病院なので、健康診断その他で採血した血清を提供してもらって、抗体検査を行う方が有意義ではないでしょうか。	対象動物の健康状態の記載については、症状を呈している動物を対象にするかを含め、今後の参考にさせていただきます。血清の使用については、動物病院側とも相談しながら今後検討していきたいと考えております。
佐藤　克	SFTSを否定できない何らかの症状が見られたサンプルについては迅速な検査結果が求められると思います。その体制は準備しておく必要があるのではないでしょうか。また陽性結果の場合の対応（動物及び飼い主）についても検討しておく必要があるのではないでしょうか。今岡先生がおっしゃるように抗体検査の実施も有効と思います。	令和２年度はまず検査体制づくりを行うことを目的として検査を実施いたしました。迅速な検査体制や、検査結果が陽性と判定された場合の対応については、今後の検討課題とさせていただきます。
中村　ふくみ	なし	
源　真希	特になし	

令和２年度

第２回動物由来感染症検討会　会議録

（３）動物愛護相談センターにおける動物由来感染症調査計画 資料７「令和３年度動物愛護相談センターにおける動物由来感染症調査計画」		
御意見		事務局回答
今岡　浩一		
佐藤　克		
中村　ふくみ	なし	
源　真希	特になし	

（４）狂犬病調査計画
資料８「令和３年度狂犬病調査計画」

御意見		事務局回答
今岡　浩一		
佐藤　克		
中村　ふくみ	なし	
源　真希	特になし	

３　その他
（令和３年度第１回東京都動物由来感染症検討会の開催時期、開催方法、検体搬送方法、その他、資料等について）

御意見		事務局回答
今岡　浩一	１、感染研でも、検体輸送箱の破損の心配がないこと、検体である事が輸送者に明らかになること、送り手にとっても輸送箱をあらためて選択する必要がないこと、などから、これまでと同様にジュラルミンケースを使用することが多いようです（私もこれまで通り使用しています）。	
佐藤　克		
中村　ふくみ	なし	
源　真希	特になし	